

「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」

防災ボランティア活動検討会 事務局
株式会社 ダイナックス都市環境研究所

1. 開催概要

(1) 趣 旨

M8クラスの東海地震により静岡県内全域が震度6強以上で大きな被害を受け、発災後7日目を迎えたが、市町災害ボランティア本部の立上げが十分できていない。そこで、県災害ボランティア支援センター（以下県支援センターという）を早急に設置し、市町災害ボランティア本部を立ち上げ、被災地での救援活動にボランティアが迅速に取り組めるための体制をつくることを目的とする。

(2) 実施日 平成18年2月25日 土曜日

(3) 時 間 11:30～16:00（受付11:00）

(4) 会 場 静岡市立城内中学校 体育館 静岡市葵区駿府町1-107

(5) 参加団体

県内災害ボランティア関係団体

県外災害ボランティア関係団体

県・市町社会福祉協議会

県ボランティア協会

県防災局及び地域防災局・生活文化部 NPO 推進室・健康福祉部地域福祉室

(6) 想定訓練状況

被害の前提概況

想定の子節・時間帯：冬の朝5時

対象人口 : 3,737,360人（平成7年国勢調査による常住人口）

対象建物 : 1,528,349棟（平成10年1月1日現在）

予知ケース : 予知なし 地震が予知されず、突然発生し、かつ、これまでに実施してきた地震対策が効果を発揮

また、想定の子単位としては、地震動や液状化の危険度は約500m四方の地域標準メッシュ単位で、建築物などの被害の想定は各市町村の町丁目（約4,000町丁目）単位、人的被害は市町村（74市町村）単位で実施した。

想定項目は主として次の通りである。

- ・自然現象（地震動、液状化、山・崖崩れ、津波など）
- ・物的被害（建築物被害、火災、ブロック塀等被害、屋外落下物被害、危険物施設被害など）
- ・人的被害
- ・基盤機能支障（ライフライン機能支障、交通・輸送機能支障）
- ・生活支障（住機能支障、飲食機能支障、医療機能支障、清掃・衛生機能支障）

訓練前提条件

- ・発災7日目を迎え、市町災害ボランティア本部の立上げが十分出来ていない。
- ・市町災害ボランティア本部を立ち上げるための要員の確保が出来ていない。
- ・被災者が必要としているニーズの把握が出来ていない。
- ・被災地での救援活動を希望するボランティアからの問い合わせが県内外から、県災害ボランティ

- ア本部・情報センターに殺到している。
- 県支援センター設置予定場所に、県内の災害ボランティア関係者が数名しか現地入りしていない。
- 県支援センター設置予定場所に、県外の災害ボランティア関係者が誰も現地入りしていない。尚、県外災害ボランティア関係者は県支援センター設置予定場所については分かっている。
- 県支援センターを早急に設置し、市町災害ボランティア本部を支援する体制を確立させる必要がある。

(7) 訓練目標

発災後7日目の午後、支援センター設置予定場所に現地入りしていた県内の災害ボランティアコーディネーターや、同現地入りした県外の災害ボランティアコーディネーター数名と、地元の関係者(災害)、県・県協・県社協職員等限られた人数で県支援センターの運営を始める。

県内外のボランティアは、県支援センターが設置された後に、同センターが管内の市町災害ボランティア本部からの要請を基に、派遣先の調整をする。

県外の災害ボランティアは、県外の所定の場所(下記を予定)に集まり、被災地での救援活動に備える。

神奈川県・・・(案)

- ・NPO 法人ハートネット福島
- ・横浜ボランティア協会
- ・世田谷ボランティア協会
- ・ピースウィンズジャパン(重複)
- ・宮城県災害ボランティアセンター
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク(重複)
- ・東京災害ボランティアネットワーク
- ・とちぎボランティアネットワーク(重複)
- ・生協連首都圏コープ事業連合(重複)
- ・川崎災害ボランティアネットワーク会議
- ・シャンティ国際ボランティア会(重複)
- ・S e R V(重複)

山梨県南アルプス市(案)

- ・山梨県ボランティア協会
- ・とちぎボランティアネットワーク
- ・ピースウィンズジャパン
- ・日本青年奉仕協会
- ・S e R V
- ・ふくい災害ボランティアネット
- ・シャンティ国際ボランティア会
- ・生協連首都圏コープ事業連盟
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク

愛知県名古屋市(案)

- ・レスキューストックヤード
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク
- ・日本災害救援 ネットワーク
- ・大分県 市民活動センター
- ・新居浜市 市民活動センター
- ・NPO 愛知ネット
- ・被災地 NGO 協働センター
- ・NPO 法人宮崎文化本舗
- ・NPO 高知市民会議
- ・S e R V

2. 東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク

【目的】

静岡県では東海地震が起きると、被害状況に応じて各市・町災害ボランティア本部や災害ボランティアセンター（以下各市・町災害本部）の後方支援拠点として、県災害ボランティア支援センター（以下県支援センター）が設置されることになっている。県支援センターは、被災状況に応じて各市・町災害本部や県災害ボランティア本部・情報センター（以下県災害本部）の機能を補うことが期待されているが、東海地震では県下全域が甚大な被害を受けることが予想されているため、構成員の確保は最も厳しい状況下にある。このような状況を踏まえ、平常時から県内外の災害ボランティアと関係者の信頼関係の構築と情報交換を行い、災害時に県外の災害ボランティアの協力を得ながら被災地での救援活動を迅速に進めていくための、広域支援体制づくりを図ることを目的とする。

【事業】

本ネットワークは、発足の目的を達成するため下記の事業を行う。

1. 東海地震に備え、県内外の災害ボランティアや関係者が具体的な連携をはかるための訓練を毎年開催し、地域の実情に合った仕組みを作る。
2. 災害時に被災地でのボランティア活動が円滑に取り組めるよう、参加団体間の相互の信頼関係を高め、ネットワークの強化と参加団体の拡大を図る。
3. 本ネットワークの目的を達成するため、世話人会を設け世話人会を年3回程度開催し、事業計画や予算案をつくる。
4. 参加団体や関係機関との情報交換を行う。

【事務局】

本ネットワークの事務局は、特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会内（静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階）におく。

【世話人】

村井雅清	（被災地 NGO 協働センター 代表）
栗田暢之	（レスキューストックヤード 代表理事）
五辻 活	（東京災害ボランティアネットワーク 専門員）
笠原英男	（災害ボランティアコーディネーター静岡県協議会 会長）
音無 皓	（災害ボランティアコーディネーター東部連絡会 事務局長）
西田幸夫	（災害ボランティアコーディネーター伊豆支部 代表）
高木春夫	（災害ボランティアコーディネーター藤枝 代表）
鷓飼愛子	（災害ボランティアコーディネーター浜松 代表）
井野盛夫	（富士常葉大学環境防災学部 教授 / 静岡県ボランティア協会 理事）
市川正敏	（静岡県労働者福祉基金協会 事務局長）
岩田孝仁	（静岡県防災局防災情報室 室長） 担当：宮田真人
森下博司	（静岡県健康福祉部地域福祉室 室長） 担当：望月美珠穂
萩原孝子	（静岡県生活文化部 NPO 推進室 室長） 担当：溝口 久
滝島金吾	（日本ボーイスカウト静岡県連盟 危機管理対策委員長）
永田大作	（静岡県社会福祉協議会地域福祉部 部長）
柿澤 彰	（静岡県社会福祉協議会 地域支援課 課長）
古木秀子	（静岡県社会福祉協議会 地域支援課 主事）
小野田全宏	（静岡県ボランティア協会 常務理事）
鳥羽 茂	（静岡県ボランティア協会 事務局長）
清水慈子	（静岡県ボランティア協会 事務局員）事務局

3 . 当日のスケジュール

平成 18 年 2 月 25 日 土曜日
静岡市立城内中学校 体育館

09:00	開 場
09:30	第 4 回世話人会 1 . 資料等の確認 2 . スケジュールと役割り分担の確認 3 . その他
11:00	受付開始
11:30	開 会 挨拶 県防災情報室、県ボランティア協会 オリエンテーション チーム編成プレイヤー紹介
12:10	訓練第 1 フェーズ 発災 7 日目迄を想定 (現状把握)
12:50	昼食 (各チーム単位でプレイヤーの意見交換)
13:30	訓練第 2 フェーズ 発災 7 日以降を想定
15:00	発 表 (1 チーム 5 分を想定し 10 チームを見込む)
15:50	講 評
16:00	閉 会

次ページより、時事防災リスクマネジメントWebに連載された記事を紹介